





## 地図絡み

### 第33回 蓮池に囲まれた華南の広州

—大正末～昭和初1万分1図—

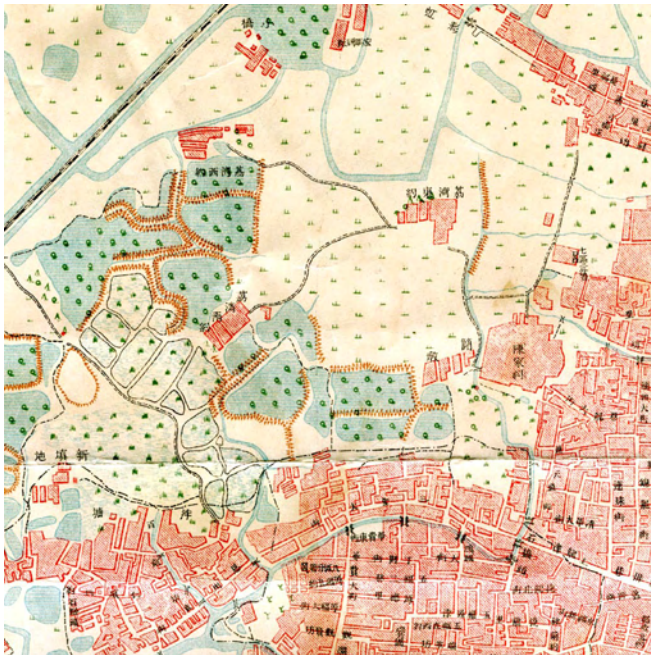
帝京大学理事 井口悦男

図に触れ、日本の赤い地形図、大正期陸地測量部大都市域1万分1と同じ流れの図と、ピンときた。

大判縦長図で、構成する13面すべてを同じ「廣州市」とし、それに算用数字の付番をし各図の位置をあらわす方式なのは、日本のばあいと相違するが、市街地を赤一色で描く、その図描から、日本に留学した民国の若い軍人の学習成果への熱い思いが感じられる。

華南の珠江に面し、香港から近い、広東省の省都「広州」に、大正末作成、昭和はじめ修正「広東陸軍測量局」1万分1地形図がある。

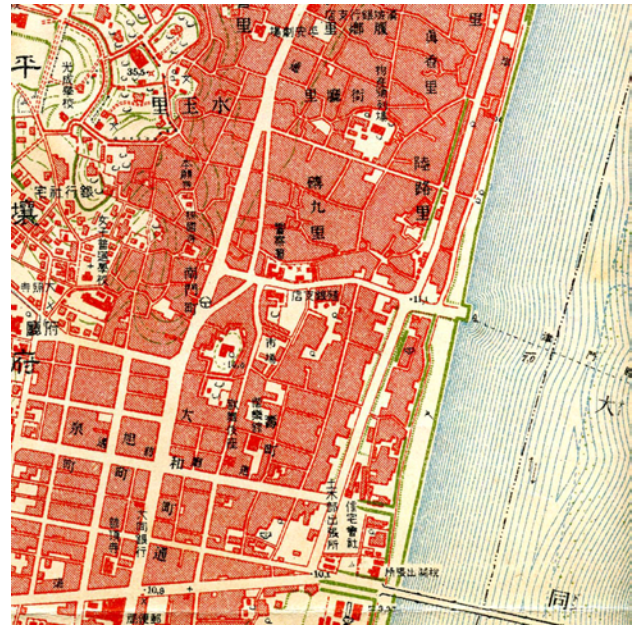
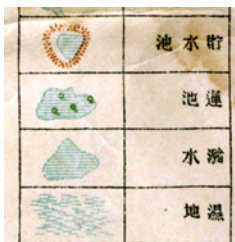
その図域は、市街地に止まらず、周辺農村にもおよぶ。5色刷でタテ72cm×ヨコ46cmの各図が南北に3段、東西に5図並び、そして最上段(北)のみその両端を図域外とする13面構成からなり、北西から南東へ、上段は1～3、中段と下段(南)とは、それぞれ4～8と9～13と



中華民国「廣州市」5 1万分1 1924 (T13) 測 28 (S3) 修  
広東陸地測量局

河川に近い低湿地に「蓮池」は分布。蓮が池全体に及ぶものと、池の岸边に分布するものとが描き分けられている。

日本の陸測大正赤図との近似性に注目。北京、南京、漢口などそれぞれ図描は別である(図の蓮池は市街地北西のもの)。



「平壤西部」1万分1 朝鮮地形図 T4測 同11二修 陸測色の違いを比べるため、日本製1万分1朱赤図例として。

する。各図名は「廣州市」1とか「廣州市」5で表現される。また、各図郭内には、白の未測地が見られ、完全に図域で満たされるのは、中央部の1面である。

そして、市街地の赤は、ローズ系赤で、日本の朱系赤とは微妙に相違する。各図脇には「繪圖員」何名かあげられるが、その経歴には立ち入っていない。日本の赤図発行経緯も心得ない。もし、ヨーロッパのベデカ(旅行案内)の都市図に影響されたとすれば、中国にも及んだとなろうか。

その上で、中国作成図の特色をあげると、各図の図郭外に200以上の図式を列記するが、宗教祠に日本との相違が認められるほか、同一記号に近い。そのような類似性の大きいなか、中国らしい選択に「蓮池」表現がある。

日本にも「蓮池」を含め、「蓮根」の栽培地の「蓮田」が各地に見られる。野菜として大根や里芋にくらべ、やや特殊になる。花は繊細可憐ながら、さらに特定扱われる。その故か「蓮田」記号は、日本で成立していない。

広州の地形図では、池全体に分布する記号と、池周辺に分布する形も描かれる。中国の人々には、食料、鑑賞用いずれにせよこの花に強い親近感をもつことにほかならない。

日本の初期図に「葡萄畑」の記号があった。日本各地にワイン生産が広がる、ずっと以前にこの記号は消滅し、りんごやみかん類からの「果樹園」記号に集約されたままである。

(08.05.05)